

平成28年度 向陽台高等学校 学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりを大切に、個性を伸ばす学校

2 中期的目標

- 1 技能連携校との関係強化
 - (1) 既存行事の充実
 - (2) 技能連携校教職員に対する研修制度の確立と充実
 - (3) 技能連携校生徒への教育力の向上
 - (4) 新たな連携のあり方の模索と新規開拓
- 2 教育活動の充実
 - (1) 教職員集団としてのチーム力の向上
 - (2) 既存コースの検証
 - (3) 教学面の強化
 - (4) 早稲田大学の教育資源・知的資源の活用
- 3 着実な学校経営の推進・教育環境の整備
 - (1) キャンパス計画の具体化
 - (2) 教育環境・施設設備の充実
 - (3) 広報活動の充実
 - (4) 学習（支援）センター開設の検討

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成28年11月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒 ・登校型コース生徒（82人）と新卒コース生徒（166人）、計248人で実施。</p> <p>○教職員 ・教職員76人で、10月～11月に実施。</p> <p>【分析】 ・約63%の生徒が、「学校に行くのが楽しい」と回答。 ・「本校には、自分が学びたいと思える講座が多数ある」と回答した生徒は、約64%。</p> <p>※多彩・多様な講座を提供することが、「楽しさ」への道筋。</p> <p>・「本校には、他校にない特色ある教育活動が行われている」と回答した教員は、約79%。 ・「『わかる授業』を目指し、授業の組み立て等の準備を十分にしている」と回答した教員は、約82%。</p> <p>【しかし】↓ ・「本校には、他校にない特色ある教育活動が行われている」と回答した生徒は、約75%。 ・「本校の授業は、私にとってわかりやすい」と回答した生徒は、約80%。 ・「本校には、授業の教え方に様々な工夫をしている先生が多い」と回答した生徒は、約76%。</p> <p>※生徒と教員との意識の乖離を埋めていくことが大切。 また、教職員アンケートにおいて、「建学の精神」・「教育理念・方針」の浸透度が低いことも反省点。</p>	<p>平成29年度から依頼予定。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 技能連携校との関係強化	<p>(1) 既存行事の充実</p> <p>(2) 技能連携校教職員に対する研修制度の確立</p>	<p>(1) 既存行事の充実 ア 総合体育大会の充実 イ 総合文化発表会の充実 ウ 進学講座の充実</p> <p>(2) 研修制度の確立 ア 授業力アップ研修 イ 技能連携制度研修 ウ 諸会議内容の検討</p>	<p>(1) 既存行事の充実 ア 参加校および参加者数の拡大 イ 発表内容の高度化と聴衆の増員 ウ 生徒のニーズに合った講座の提供、受講者の拡大</p> <p>(2) 研修制度の確立 ア 研究授業研修会の開催 イ 技能連携制度研修会の開催 ウ 諸会議の充実</p>	<p>(1) 既存行事の充実 ア 8キャンパス約600名参加【○】 イ 1名が全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会へ出場し、文部科学省初等中等教育局長賞受賞。参加校9キャンパス、参加者(含聴衆)約800名(午前、午後の平均)【○】 ウ 2キャンパス33名。講座内容にも工夫が必要【△】、目標:50人以上の受講者数</p> <p>(2) 研修制度の確立 ア 研究授業研修会を5キャンパスで実施【○】 イ 技能連携制度研修会を5キャンパスで実施【○】 ウ 例年どおりの会議実施【△】、目標:昨年度実績以上の参加者数</p>
2 教育活動の充実	<p>(1) 教職員集団としてのチーム力の向上</p> <p>(2) 既存コースの検証</p>	<p>(1) チーム力の向上 ア 権限と責任の明確化 イ 共同体意識の醸成 ウ 通信制高校の役割の共有化</p> <p>(2) 既存コースの検証 ア 登校型コースの完成 イ コース検証プロジェクト ウ スクーリング時数8/10減免体制の検討</p>	<p>(1) チーム力の向上 ア 各会議体で検討 イ ホスピタリティ研修実施 ウ 「向陽台高校レポート」「事業拡充計画」の共有化</p> <p>(2) 既存コースの検証 ア 募集定員等の検討 イ 前年度の「教育改革プロジェクト」を受けて、「戦略会議」で検討 ウ 「e-ラーニング開発室」等で検討</p>	<p>(1) チーム力の向上 ア 分掌間および教員・事務間の連携に課題【△】、目標:分掌間会議の開催 イ 講演会およびグループ討議【○】 ウ 6月の職員会議で、本校の今後の方向性と課題について確認。さらなる具体化が必要【○】</p> <p>(2) 既存コースの検証 ア 運営面でのさらなる検討が必要【△】、目標:クラス数確定に向けての調整 イ 17回に及ぶ「戦略会議」での検討【○】 ウ 具体的な動きにいたらず【△】、目標:方向性の確定</p>
3 着実な学校経営の推進・教育環境の整備	<p>(1) キャンパス計画の具体化</p> <p>(2) 教育環境・施設設備の充実</p>	<p>(1) キャンパス計画の具体化 ア 将来構想の検討 イ 生徒募集の強化 ウ 教職員の人材育成</p> <p>(2) 教育環境の充実 ア トイレの改修 イ 廊下の補修 ウ 新規格机への変更</p>	<p>(1) キャンパス計画の具体化 ア コース再編、教室計画等の検討 イ 広報活動の強化 ウ 教職員研修実施</p> <p>(2) 教育環境の充実 ア トイレの改修 イ 廊下の補修 ウ 一部教室への導入</p>	<p>(1) キャンパス計画の具体化 ア 具体的成案にいたらず【△】、目標:方向性の策定 イ 中学新卒入学生の増加【○】 ウ 教職員の人材育成面に課題あり【△】、目標:年間5回以上の研修会</p> <p>(2) 教育環境の充実 ア 4Fトイレの改修【○】 イ 6号棟1~4階廊下の補修完了【○】 ウ 一部の教室に限定【△】、目標:設置計画の再策定</p>